

## 教師と子どもと地域が創りあげる授業に学校教育再生の夢を託して

東京都立川市立第三小学校校長  
くろだ まさお  
黒田午左男

### 【実践の概要】

学校が本来の役割を果たし、子どもや保護者および地域の信頼を得るためには、教育活動の根幹をなす授業を早急かつ抜本的に改善・改革することが重要である。

従来型の校内研究などによる教員の資質向上で授業を改善する手段では、改善の質および規模のうえで限界があり、これを乗り越える方策が必要である。

そこで、教職員の戸惑うなか、地域・保護者の方に直接授業や授業支援への参画をしてもらうために、全教科領域 160名に及ぶ「学校教育活動支援組織」を作りあげた。

専門的な知識技能をお持ちの方による授業は、子どもたちにとり、魅力的で、よく分かり、楽しい学びを実現し、教師の授業観を変え、自らも授業を拓くことになった。

個に応じた指導、基礎・基本を確実に習得させるための方策では、複数指導体制での授業でしか実現は難しいと判断した。

具体的には、低学年の国語科と算数科の重要単元では、単位時間5～6名の支援者が入る複数指導体制の授業を実践して、有効性を実証した。

教師と子どもと地域とが授業を創ることを通じて授業は充実し、「地域に開かれた学校」は実現しつつある。

### 【論文内容の紹介】

#### 1 主題設定の理由

- ・既存の授業観での授業改革は、限界に達していて、効果を期待できない。

・これからの授業は、学校の枠を越えて、地域・保護者の参画を得て、教師と子どもと地域が共に創りあげるものも重要であると考えた。

#### 2 研究の実際

##### (1)教師と子どもが共に創りあげる授業

普段の授業のなかで、教師と子どもの授業観の変革を図った。教師側は、教えるから学びを創ることに重きを置き、子どもには積極的学習参加で、楽しく分かるそして伸びるを実感できるようにした。

柱としたことは、言語表現の充実や相互に補い合うコミュニケーション能力の育成と、教師と子どもの協働である。

##### (2)ゲストティーチャーの拡大

国語科、社会科、理科、体育科等々、殆どの教科領域において、地域及び公共機関等の専門的な方による授業を組み込んでいった。

##### (3)国語科、算数科の複数支援授業

低学年の国語科、算数科の重要単元で、地域・保護者による支援を受けた複数指導体制での授業を実施した。具体的には、その単元全時間5～6名の支援者を入れ、きめ細かく個別に対応支援できるようにした。

支援の内容は、答えを教えるのではなく、子どもと対話しながら、解決や習得へとつなげる役割を主とした。その理由は、子ども自らが学び方を身につけるよう配慮したからである。

#### 3 研究の成果と今後の課題

低学年での、基礎・基本と学び方の習得には大きな成果を上げた。どの子も複数指導体制での授業は、よく分かり楽しいという感想を述べている。

延べ1300人にも及ぶ支援者の授業参画は、地域に開かれた学校、地域に根ざした教育の面からも、学校と地域との連携および信頼関係が強くなった。

多くの実践を積み重ね、改善を図っていくことが重要である。